# 三井に責任認めさす

## 明治校区の水害で三鉱地連協が陣頭に

八月十四日朝、雷をともなつた豪雨が大牟田、荒尾地方をおそい各地に大きな被害をもたらしたが、明治校区は全般的に鉱害で地盤がひくくなつているため、とくにその被害がひどかつた。また落雷による停電でポンプが止まり排水作業がおくれ地域民に多大の被害をあたえた。鉱害のために水害の被害が大きかつたので、当然三井鉱山が被害補償をすべきだという声がたかまり地連協代表、居住民代表などで対策委員会をつくり、三鉱労組政治局員もふくめて、三井鉱山不動産課を相手に積極的な補償闘争をつづけている。これは参議補欠選挙中の出来ごとでもあつたし具体的な要求を中心に三鉱労組地域分会と地域民との共闘の盛り上りが注目されている。

十四日未明の豪雨は、五十年来の大雨で、鉱害で地盤がひくかつたためと、落雷のための停電によるポンプの故障で明治校区一帯は床上浸水二三七戸、床下浸水八四八戸という多大の被害をうけた。

刻々と水かさが増し、いたたまれなくなつた地域民は、大黒町ポンプ座に押しかけ、係員にポンプをうごかせとつめよつた。しかしいつこうにらちがあかず、不動産課長を電話でよびだし、地元の状況を視察して早急に対策をたてるよう確約させた。

地域民はただちに対策本部をもうけ、村松課長、濱田課長代理と水にひたつての交渉にはいつた。

交渉では〃こんどの水害は天災ではなく三井鉱山の鉱害に原因があるので三井が水害補償をせよ〃と追求し長時間にわたる交渉のすえ、「今回の水害は三井鉱山に責任があるので、損害の補償と今後の対策について地元側の納得のゆくよう誠意をもつて交渉に応じます」という拇印による文書をとつた。

### 市民と共闘

### 三井の正体を暴露

第一回交渉を八月二十日にきめそれにさきだつて十七日校区民大会をひらくことになつた三鉱労組明治校区地連協は、ちようど夏季闘争の総会をもつことになつていたが、校区民大会に合流して大会を成功させるために大きな役割をはたした。

この大会で三鉱労組地連協、公民館、自労地域分会、婦人会、被害者などからなる校区全体としての対策委員会を発足させ闘争体制を確立し、当面の水害補償だけでなく鉱害問題についても対策にあたることになつた。

これにたいして一部保守系の者が来年度の地方選挙にからませ鉱害補償は市会問題であると、三井との交渉からはずそうとする策謀があつたが、地元民の切実な要求に反撃された。

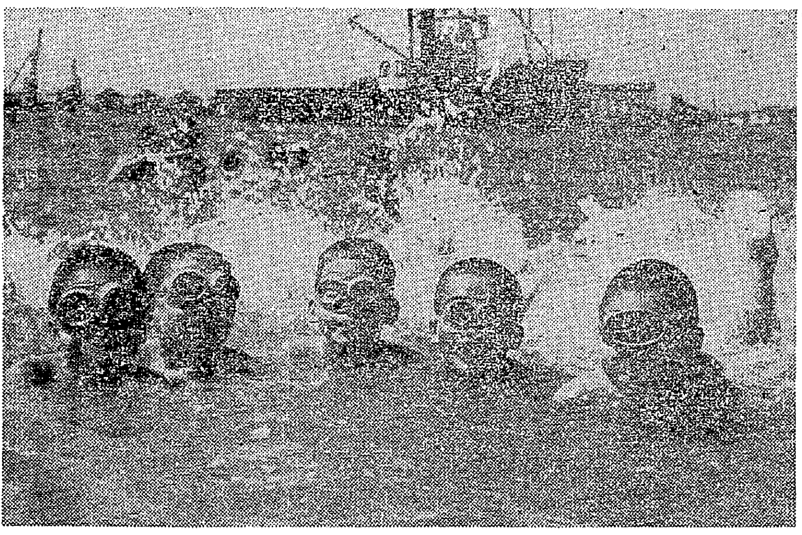
二十日、市役所第一会議室で第一回交渉がもたれたが、会社側は十四日現地交渉で取り交した文書は正式なものとは認められないので正式な調印は出来ないと文書を反古にしようとしたが、五時間にわたる交渉のすえ調印をさせた。

それまで、三井にたのめばどうにかなるだろう。三井は市民をふみつけにしないだろうと一部地元民には甘い期待さえあつたが、三井の本質をみていかりにもえた。

第一回交渉で地元民は三井の本質をみぬき、その後の交渉は現地交渉を行うことになり、二十四日明治小学校で第二回交渉がもたれる。

三鉱地連協では役員会をひらいてこの水害鉱害補償闘争の中心となり積極的な活動をつづけることを確認した。

会社側が地元民の要求を全面的にみとめなければならなかつたことは、三井鉱山の鉱害で荒れている大牟田の市民にとつては大きな関心事であり、この闘いで三鉱労組地連協が具体的な要求で地域市民との共闘を組んだことも注目されている。



佳作「カツパ群」 三川 長南久太

# 両手に花以上の栄誉

## 高い技術を安く売る写真ドコヤ

忙しい大谷厚生トコヤと円内はカツプ

さる八月四日、荒尾市の労働会館で行われた荒尾市保健所、理容師会共催の理容競技大会に見事一等二等、三等と全部のカツプを一店内でしめたトコヤさんがある。この店は大谷社宅一体で写真ドコヤと評判になつている厚生トコヤがそれで、この優勝のよろこびを店主の福永さんは

日ごろ店の人たちが技術の錬磨に励んだ賜ですよ。一等にはいつたマーチヤン（稙川正明21）は昨年も一等をとり、今年で二年連続の入賞です。この後、熊本で県大会、それに二位まで入れば全国大会に出場するわけですが、わたしの念願はこの全国大会で入賞することです。「安い物を安く売る」これは当然のことで、厚生ドコヤはこれではいけないと思います。〃高い技術を安く売る〃これが店のモツトーで、そのため普段から技術については研究をやつており、店の人たちも、毎日を競技会のつもりでやつている、その結果がこんどのような栄誉をかち得たのではないのでしようかと語つた。

また、大谷社宅に住んでいる一組合員は写真ドコヤについて街で百五十円出して刈つたのより、よつ程よい。技術の面は勿論、サービスも満点で「値段だけしかない」という厚生ドコヤの汚名は、福永さんの店には通用しない。

こんどの入賞は大谷社宅に住んでいる者にも一つの自慢の種が出来たようなもので、全部の厚生ドコヤが福永さんのような意気込みでやれば、もつともつと利用者が増えるのではないでしようか。

と語つた。

なお、福永さんも県大会で二等の栄誉を獲得した技ようの持主であり、一軒の店から同時に三人の入賞者を出したことは厚生ドコヤの面目を一新するものであると組合員間にもつぱらの評判になつている。

## 足あと

昔の職場はどんなだつたろうか—

# ちんば鶏とおいこら

## 昔の職場と今の職場

—戦前の職場は完全に職制が支配し、労働者の発言は一言半句も認められずに、ただ一方的に繰込まれ、係員の命ずるままに働らかされ、会社の都合によつて配転も首切りも自由自在といつたありさまであつた。

一切の労働条件（賃金、労働時間、その他）は、職制が天降り的にきめ、労働者は何もいえず黙々とそれに甘んじなければならなかつた。

その実例を二三あげてみると繰込みは係員の好悪感情で決められることも多く、係員から常日ごろよく思われていない者、正直なものは毎日悪い条件の職場で働らかされたという実例もある。勿論なかには良心的な係員もいたが。それに不服もいえず陰でブツブツいう程度ですまされていた。たまに文ら句をいおうものならそれこそ大変で頭ごなしにはねつけられた。

作業量も、どこでどう決められるのか労働者には全然わからず、係員から一方的に繰込の際「きようの料程は何函だ」と命じられ、余程のことがないかぎりこの科程を終えなければ昇坑できなかつた。

賃金もどこでどう切賃がきめられるのか一向わからず、係員のペン先一つで振増しが増減される仕組になつていた。だから係員にオベツカをつかい、貢物をすることが横行していた。

当時、チンバ鶏という言葉があつた。（鶏がチンバになつたから食べてくださいといつて係員にとどけること）係員の態度はまつたく横柄そのもので、名前は全部呼びすての「オイ、コラ」式だつたそして検定灯と金のステツキをもつて坑内中を威張り歩いていた。今から考えると想像もできないような暗い職場であつた。思いだしてもゾツとするくらいである。

終戦後——ところがこのような圧制にたいする労働者の怒り、憤まんは終戦とともに爆発した。「係員はけしからん、徹底的にやるぞ」という空気が各職場でもりあがつてきた。

こういう雰囲気のなかで「労働組合をつくろう」といううごきもおこり、組合結成準備委員会が発足したが、内部体制はその前に職制をたたこうという空気が非常につよく、準備委員はまず組合をつくつて闘おうとその説得に大変な苦労をした。

いよいよ組合ができあがつて、第一に職制の民主化ということがとりあげられ、係員と各職場でかけあいがはじまつた。そのため係員の態度は一変し、職場の主人公は労働者にとつてかわり、係員は小さくなつて戦争中のいいわけをしてまわつた状態であつた。

当時「おい、そんなに怠けていると係員にするぞ」といつていた時代もあつた。その後—終戦の虚脱状態からたちなおり占領政策を後楯として職制復活がはじまつた

二十四年には一般基準と称して職制に好しくない者、心よからぬ者を一斉に整理した。そしてレツド・パージをおこない、組合運動の弾圧、職場の活動家をしめだしさらにおいうちをかけて「希望退職」という名の首きりをやつた。

そのころから職制の権威を逐次もりかえし、つぎに二十八年の大量首きり百十三日の大闘争となつた。現在の職場環境はこの百十三日の企闘のなかから完全雇傭と一方的な配転拒否など確立されたといつても過言ではなかろう。

繰込みの民主化や世話方制度の廃止を勝ちとり、そして自由にモノがいえる職場を確立して今日に至つている。この職場環境にたいして会社はさいきん、会社側的立場にたつた、いわゆる新しい職場秩序の確立を企画している。

われわれの力が弱ければ再び昔のような暗い職場にかえり、いうこともいえず、黙々と命じられるままに働かねばならないことが来ないとは誰が保障できよう。

われわれは現在の力をもつと強め、明るい職場を築く努力をつづけなければならない。それがわれわれの最大の任務である。

# 川上峡（佐賀）にキャンプ

## 張切る宮浦支部行動隊

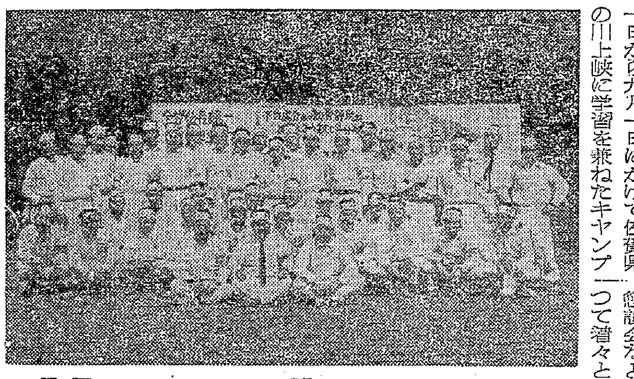
宮浦支部行動隊は、来る八月三十一日から九月一日にかけて佐賀県の川上峡に学習を兼ねたキャンプ・リクレーションを行う。

これは日ごろ、年に何回かはこのような行事をやろう、という班長会議の懸案が実現したもので、階級的に人間性を深めるとともに、お互いが違つた職種、部内にいる関係からこの種の行事で隊員や班の交流をやり、一段と前進しようという考えから生れたもの。

当日は原守男氏の指導で労働歌の練習、古賀支部長が講師で「不況下の労働運動」「機械化合理化の問題」などの労働講座や、その他班対抗の競技などを行う予定。

宮浦行動隊はいままで平和キャンプ、平和行進などにも率先参加したほか、中小労組、染料、日教組など他労組との交流を深めるため懇談会などをもち、自己の殻を破つて着々とその実をあげているが都市部だけでなく農村との交流も必要との考えから、九月には両関の青年団との交流懇談会も企画しており、一般にも大きな期待がもたれている。

なお昨年までは隊員百名程度であつたのが、今年に入つて百四十名と増え、質量ともにますます充実したものへと発展している。



写真は宮浦支部行動隊員

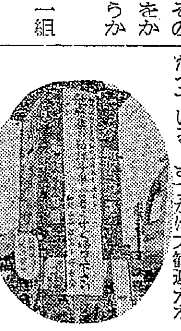
## ちくら談義

### 勤評闘争業者

八月十五日から二日間和歌山でひらかれた勤評反対全国集会に三池からも機編集部長が出席した。

汽車をおりると駅前におおきな塔がたつている。さすがに大歓迎だなとおもつてよく見ると〃他府県の勤評闘争業者よすぐ帰つてください〃とかいてある。

一行、闘争業者とやられて苦笑の巻。



### 国際的ケンカ

うだるような暑さの八月某日。三川方面の某パチンコ屋で、ある韓国人と日本人がふとしたことからけんかをはじめた。すばやく日本人が韓国人の顔面を一発!

おこつた彼氏

「チキショウ!国際問題にするゾ」

「するならしてみろ」

「あした 李承晩にいいつけるゾ」

まさに国際的おおげんか。藤山外交のせいか?

### 社会党四人兄弟?

参議員補欠選挙をまえに八月二十二日笹林公園で社会党の演説会があつた。街頭の電柱にはられた宣伝ビラ

鈴木 茂三郎
松本 治一郎
浅沼 稲次郎
伊藤 卯四郎

みんな何々郎の名前、しかも一郎から四郎まで、さしづめ社会党四人兄弟大演説会といつたところ。

ガンバレ、ガンバレ

## 三川支部第11回全国労組体育県大会へ

七月六日より開催され労組体育大会大牟田地区予選で、三川支部野球部が優勝し、つぎのとおり県大会に出場することになつた。

期日 八月二十二日 二十三日
場所 小倉市三萩針球場
出場チーム
福岡＝森永製菓労組
久留米＝市役所職組
直方＝貝島大之浦労組
八幡＝大正鉱業労組
大牟田＝三鉱労組（三川）

## 本所チームが出発

### 第12回全国炭鉱野球大会

八月五日から三日間、福岡市平和台球場で開催された全国炭鉱野球大会九州地区予選に、本所チームは嘉穂チームを圧倒的に打破し、なまず田チームとともに全国大会に出場することになつた。

全国大会は二十五日から東京の後楽園球場で開催されるが、本所チームは必勝を期して、チームワークの強味に、三川の細田田中のバツテリー、宮浦の甲斐の三氏を補強、二十二日出発した。

## 三鉱少年野球

例年夏休みを利用しておこなわれる少年待望の三鉱少年野球大会は盆あけの十九日よりその幕をきつた

いままでの戦績はつぎのとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 四山 | 7－1 | 三作 |
| 宮浦 | 13－8 | 三川 |
| 本所 | 2－1 | 港務 |
| （敗者復活戦） | | |
| 港務 | 12－1 | 三作 |
| 港務 | 4－2 | 三川 |